

令和6年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (12月20日実施)	総合評価 (3月21日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①多様な生徒の目標や課題に丁寧に対応し、学習効果を最大限に発揮できるカリキュラム・マネジメントの確立に学校全体で取り組む。 ②主体的・対話的で深い学びから社会で求められる資質・能力を育み、生涯にわたって学び続けることができるように指導する。	①生徒にとって効果的な学習の支援体制を充実させる。 ②生徒が興味・関心を持って参加したくなる授業を展開する。	①習熟度別授業の展開や少人数学習、チームティーチングや新たな支援方法を検討する。 ②授業研究等を活かし、工夫をした授業を行う。	①昨年度よりも効果的な支援を行うことができたか。 ②生徒が意欲的に参加し、学びたいくなるような授業が行えたか。	①習熟度別授業やチームティーチング、多展開授業、定通併修を行った。 ②授業研究等を実施し、授業改善を図った。	①個々の生徒の特性に応じた、より丁寧な授業展開をしていくことが望ましいが、今後は職員減等で対応が今よりも難しくなるので、さらなる検討が必要。 ②今後も生徒の実態の把握・理解に努め、授業を工夫し続ける。	①教員減でも習熟度別授業を展開していることは評価できる。習熟度別は効果が高いと考えられるので可能な限り実践に努めてほしい。 ②定期的に授業研究を実施しているので生徒の学びが深まっている。	①生徒にあった柔軟な学習の支援を行うことができた。今後どのように発展・拡充することが課題となる。 ②授業研究から授業改善を図ることができた。効果的な授業研究を継続し続けることが課題となる。	①カリキュラム編成や時間割等の工夫や学習支援員の活用なども視野に入れて、更なる改善を検討していく。 ②授業評価等を参考にしながら、教員で目線を揃えた授業改善を行っていく。
2	生徒指導・支援	①生徒活動を更に活性化させ、豊かな人間性や社会性を涵養する。 ②学校生活の中で、基本的なルールを守り、しっかりとした判断力と規律を守る意識を育て、自立した社会生活が出来るよう指導する。	①各活動において、生徒一人ひとりに役割を持たせ、活躍できる場を設ける。 ②組織的な教育相談体制を確立し、生徒一人ひとりに合った支援の充実を図る。	①行事への参加率を増やすと同時に、個々が活躍できる場を設け、行事の活性化に繋げる。 ②個々の課題解決に向け、引き続き組織的な指導・支援の充実を進めていく。	①各活動における生徒の活動状況の確認と、目標達成度の調査を実施する。 ②生徒の課題に対し、適切な指導・支援を行えたか。	①行事は、全校生徒が様々な形で運営に関わることで参加率向上と活性化に繋げることができた。部活動は、陸上競技部とサッカー部が全国大会へ出場することができた。 ②生徒指導支援は、マニュアルに従い組織的に対応した。情報共有や生徒対応は検討を継続する。教育相談は、様々な背景を抱える生徒の情報を共有した上で、SCやSSW、外部機関と連携し問題解決に繋げることができた。	①生徒の活動が活性化され、生徒一人ひとりの活躍の場が増えてきた反面、教職員の兼務が多くなり負担増となっている。生徒の活躍の場を制限せず教職員の負担増とならない運営方法を検討していく。 ②生徒指導資料やいじめ防止等のマニュアルの見直しを行い、現生徒に合った生徒指導・支援体制の方針を確立していく。個々の課題解決に向け、組織的な支援の充実を進めていく。	①少人数ながら部活動が活発に実施されていて複数の部活動や生徒生活体験発表大会で全国大会に出場していることは評価できる。 ②マニュアルの整合性など見直しに着手して組織的な支援体制の構築に向けた取り組みを継続してほしい。	①各委員会の活動内容を明確にして役割を持たせた結果、行事の活性化に繋がった。次年度も生徒の活動を制限せず、如何にして生徒の活動を支援・指導していくかが課題となる。 ②様々な指導・支援の基本となるマニュアルの見直しに取り組むことが出来た。これらのマニュアルを基に、引き続き、組織的な指導・支援の充実を進めていく。	①各行事の実績と課題を、生徒とも共有して次年度の行事運営に繋げていく。また、部活動の活動状況を精査し、実績に応じた教員配置を検討し、部活動の活性化に繋げる。 ②定期的に教職員の研修や情報共有会の実施を計画し、更なる組織的な支援を進める。
3	進路指導・支援	①幅広い進路選択に応えることができるよう、キャリア教育の充実を図り、進路支援体制を確立する。	①進路支援体制を充実させる。	①外部機関との連携を整理し、活用方法を生徒・教員にアナウンスする。	①希望の進路に向かって活動することができたか。	①面談時間をしっかりと確保し、個々の生徒の進路支援をしていくことができた。	①外部機関の連携・活用については、SSWとの連携も含め、ニーズに応えられるように、準備をしていく。	①外部機関との連携や活用を通じて進路支援体制の充実を図ってほしい。	①専門機関との連携が取れてきているが、生徒側の受入れの姿勢が整っていない場面も見受けられるので、どのようにアプローチしていくかが課題となる。	①SCやSSWとも連携を取り、助言をもらいながら、生徒の実態に合わせて対応していく。
4	地域等との協働	①地域との協働・連携による開かれた学校づくりを目指す。 ②中学校や地域への情報発信を活性化させ、定時制の存在意義の再認識を目指す。	①学校WEBサイトを活用し、学校行事等での情報発信を充実させる。 ②中学校をはじめとする地域への広報活動を充実させる。	①学校WEBサイトでの情報発信や、地域貢献デー、文化祭などの学校行事を通じて内容を充実させる。 ②中学校等へのアプローチ、学校説明会等の維持と充実。	①文化祭等での来場者の反応、PTAや学校運営協議会員の評価。 ②広報活動の活性化に伴う職員の負担増を少なくできたか。	①学校WEBサイトは部活動紹介欄を作るなど充実を図った。文化祭ではPTAと連携してPR活動を行った。また広報のためにPTAがアンケートを実施した。 ②説明会の内容の充実に努めた。	①②いずれもクラス減に伴う職員数の減少が続く中で今の水準を維持できるか、難しい状況にある。	①②学校WEBサイトでルビ付きの案内文を掲載していることは丁寧でわかりやすい。 職員減ではあるが地域連携はできる限り継続して取り組んでほしい。	①②PTAとの連携、校内関係者向け情報提供、中学等への広報活動も昨年度同様に実施した。教員数減の中で今後も継続できるかが課題。	①②学校説明会の簡素化、個別の学校見学の効率化等を検討する必要がある。

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (12月20日実施)	総合評価（3月21日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
5	学校管理 学校運営	①社会から信用される学校づくりを推進し、事故・不祥事の防止を徹底する。 ②教職員の働き方改革推進のために職場の意識改革を図る。	①授業や部活動、学校行事などに職員が注力できる環境づくり。 ②業務の精選と効率化を進める。また職員室の整備を行う。	①業務量の均等化。業務内容を複数の職員が把握できるようにする。 ②効果を検証しながら検討を続ける。職員室については物品の更新や廃棄を進める。	①業務量の均等化や複数の職員による業務内容の把握が進んだか。事故が起きなかったか。 ②年度末に職員対象アンケート調査を実施。物品の整理が進んだか。	①差し迫る職員数の減少を前に必要性は高まっているが、対応は遅れてしまった。 ②物品の整理等を進めた。	①②職員が減ることによる多忙化は、授業の質の低下や事故の原因となりうるため、今後も検討を続ける必要がある。	①生徒減、職員減で学校運営に影響が予想されるが業務整理や地域連携などに取り組んで教育活動を後退させず進めてほしい。	①②業務量の軽減を図ってきたが、業務の精選にも限界がある。また常勤の女子職員が少なく、相談が集中するなどの問題も生じている。	①②業務アシスタントの活用等も検討する必要がある。また職員の男女比率の改善が事故防止上も急務である。